

青山大人(あおやまやまと) 県議会報告かわら版38号



平成 24 年 1 月 3 日発行 青山大人事務所 土浦市乙戸 801-2

電話 029-828-7011 FAX 029-828-7012 メール info@aoyamayamato.net

★ブログでは主に県議会での活動について、フェイスブックでは、日常の活動やプライベートについて公開しております。是非、そちらもご覧になってください。

～青山大人(あおやま やまと)の略歴～

1979年土浦市生まれ。現在32歳。荒川沖小、土浦三中(陸上部主将)、土浦一高、慶応義塾大学経済学部卒。2006年12月に県議会議員初当選(当時、全国最年少の都道府県議会議員)。2010年12月の県議会議員選挙にて2期目当選。2008年1月に第21回日米青年政治指導者交流プログラム日本代表団に選抜される。街の活性化のため映画ロケを地元へ誘致するなど議会以外でも精力的な活動を展開。東日本大震災時は翌日から市内の水道復旧状況等をいち早くブログで情報発信し、一日での閲覧者が最大35000件を記録。また、福島県や宮城県への被災地支援活動が新聞等で大きく掲載される。現在、県議会文教警察委員会委員、東日本大震災復興・元気ないばらきづくり調査特別委員会委員、土浦消防団第27分団員(土浦市操法大会へ3度出場)。

●2012年も早2月に入りました

2012年もあっという間に一カ月が過ぎました。2月から県議会が始まります。今年、青山は元旦から市内各地の街頭活動からスタートいたしました。

さて、昨年末から消費税増税の議論が国会ではさかんに行われております。まるで消費税上げることが日本の財政状況を劇的に改善し、社会保障制度を再構築できるような論調に私は大いに疑問を感じております。幕末の備中松山藩(現在の岡山県)の財政改革を8年で行い藩全体に活力をもたらした山田方谷の理財論にも同様のことが書かれております。

当時の松山藩は厳しい財政状況であり、ここ数十年は、農民からの税、食品税、通行税などとれるものから税を徴収し、藩の支出も削ったが財政は悪化の一途をたどっていました。米の蓄えも底を突くようになり、借金も山のように。これは担当役人の力不足か、あるいはまだまだ徴税が足りないのかという議論がなされていました。

そんな状況の中、山田方谷は、**夫善制天下之事者。立乎事之外而不屈於事之内。**と説いています。

つまり、リーダーは、国家の経営にあたり、将来のビジョンを持って大所高所に立った判断をすべきである。今は平和になりすぎてしまい、どこの国の藩主も家臣も平和ボケしてしまい、もっぱらの心配事は目先の財政のことばかりである。

民衆の関心もこのこと一点張りで、誰も問題の根本の原因を考えようとしない。日に日に、人の心は乱れ、教育も廃れ、軍備はゆるんでしまった。こういったことが、根本的な問題だというのに、その大切な問題を忘れているから、余計に規律は乱れ、財政もゆき詰まっている。にもかかわらず、財政問題の枝葉に走り金銭の増減にのみこだわっているような政治では藩は立ちいかない。藩主と家臣は、細かな財政の問題は専門の役人にまかせて、その大枠を掌握し管理すれば良いのだ。財政再建ばかりに目を向けるのではなく、大局のビジョンを示せ。

ただし、山田方谷は理財論の最後にこう締めくくっております。**自非英明特達之人其誰能誠之**(英明特達のリーダーでなければ、こういうことを成し遂げることはできない)

●編集後記

理財論について長々と、多少自分なりの解釈も加えて書いてしまいました。国政に対して言いたいことは色々ありますが、県議である以上、単なる批評家になってはいけません。

今年も茨城県内の被災したインフラや公共施設の早期復旧、放射能対策、新たな防災計画下での地域づくり、被災者支援をまずは第一に取り組むとともに、将来を見据えた産業大県づくり、人口の県外流出対策、エネルギー問題そして今年には県議会文教警察委員会を担当するので、より「教育」に焦点を当てて取り組んでいきます。今年もまずは皆さんから信頼される政治を目指して、自らが襟を正して取り組んでいきますのでご指導のほど宜しくお願い申し上げます。